

とやま

1998
12
No.359

県広報とやま
富山県

特集 / 県政この一年



総合運動公園を視察した、一日2000年国体局長の井出妙子さん(右側) ※記事は12ページをご覧ください。



● 森 弘樹さん
二紀展に史上最年少で入選

CONTENTS

とやま遊学感 1 いなみ木彫りの里

ひとアズとやま 2 森 弘樹さん

特集 3 県政この一年

ピンナップとやま 7 写真●赤羽仁諭
(富山県写真家協会会員)
詩●若栗清子
(富山県現代詩人会会員)

クローズアップ 9 北東アジア地域
自治体会議'98

トピックス 11

健康ひとくちメモ 13

県の施設の催しガイド 14

表紙撮影●赤羽仁諭(富山県写真家協会会員)

とやま
遊学感

木と出会い、技とふれあう
テーマパーク
【いなみ木彫りの里】



レポーター
林 千代美さん
(井波木彫りの里職員)



新しい感性を取り入れた作品。井波彫刻のもうひとつの顔です



名品「日本三景」は斜め下からご覧ください

手頃なお値段のクラフト作品もあります



創作活動を見学できる木工房



彫刻師の技が木に生命を吹き込む

日本一の彫刻のまちとして知られる井波町。その一角に「いなみ木彫りの里」があります。

最初は、実際に創作活動を見学できる「木工房」へ。あたりには、日本の音風景百選にも選ばれた、井波彫刻の木槌やノミの音が響きわたっています。作品の販売もしていますから、作家と言葉を交わしながら作品を選ぶのも楽しいですね。

続いては、木の香りあふれるアートスペース「井波彫刻総合会館」。ここには、欄間をはじめ、木彫りの芸術品ともいべき作品が展示されています。名工、初代南部白雲の手による「日本三景」をご覧になるとときには、作品の前でしゃがんでみてください。欄間が表現する風景の雄大さに思わず息を呑むはずです。

また、彫刻総合会館では、作品を展示するだけでなく販売もしていて、作品名とともに価格も書かれています。そして館内には、伝統的な作品だけで



なく新しい感性を取り入れたレリーフなども展示されていて、伝統の中から生まれてくる新しい風を感じることもできます。

実際に彫刻やクラフトづくりに挑戦してみたくなったら、「創遊館」の二階にあるくりえいと工房へ。十分間コースから一日コースまで六つのプランの中から、ご希望にあわせてお選びいただけます。創遊館にはこのほか、井波の民話などが上映される「不患樹劇場」や、楽しいおみやげがいっぱいの「なんと楽市」、レストラン「きつつき倶楽部」、露天風呂や薬湯もある「木の香浴泉 ゆら湯ら」などもあり、ゆつくり楽しめます。

木と出会い、技とふれあうテーマパーク「いなみ木彫りの里」。皆さんのお越しをお待ちしています。

自由に自分を表現したい



入選作「幻想即興曲」

「入選作のタイトルは大好きなショパンの曲からとりました。いつもクラシックを聴きながら、どんな作品にしようかと考えるんです」。そう語ってくれたのは、富山第一高校一年の森弘樹さん。十月に東京都美術館で開かれた第五十二回

「ピエロは自分自身。好きなピエロを自分に置き換えて表現するシリーズを描いていきたいと思っています」。森さんの作品には、入選作以外にも、乗馬をしたり(旧友)、吟遊詩人と木に登ったり(森の音楽祭)するピエロの姿が見られます。

「家で描いているほうが自由気ままに楽しみたい」という森さんは、学校の美術部には所属していません。そのため、担任の先生が新聞記事を黒板に張り出すまで、油絵のことは友達に知られていなかったそうです。

幼い頃から絵を描くことが大好きだった

た森さんは、中学に入ると美術部に入部しました。しかし、仲間からは、自分の思いを自由に表現する抽象的な作品をへたくそと言われ、ひどく悩んだといいます。そんなとき出会ったのがピカソの絵でした。「こんな表現もあるんだ」。以後、森さんは、県の青少年美術展で入賞を重ねます。そして一昨年、東京で二紀展を見たことをきっかけに、今回の応募・入選となりました。

このまま絵を描き続けることができれば、それが一番うれしいという森さん。将来どうするかについてはまだ未定というのですが、「大学に進んだら、夏休みにいろんな国を旅行したい。そして、いろんな風景を見て、水彩のように透明感のある油絵を描いてみたい」と夢を語ってくれました。

県政この一年

環境問題への関心が高まる中、県では今年、立山の環境保全や環日本海環境協力などに積極的に取り組みました。また、次世代を担う子どもたちの活躍を支援する施策や環日本海の航空ネットワークの形成など二十一世紀を展望した県づくりを進めました。ここでは、この一年間にあった県政の主な出来事を政策の柱に沿って振り返ってみましょう。

明日を拓く人づくり

健康・福祉の増進

■高齢福祉課に介護保険班を設置したほか、市町村が公平で効率的な要介護認定を行えるよう全市町村で試行を実施するなど、介護保険制度の導入に向けた準備を進めました。

■ストレス対策を含めた県民のこころの健康づくりを推進するため、こころの健康プランを策定したほか、夜間や休日に精神障害に対する適切な医療を確保する精神科救急医療体制がスタートしました。



子どもとやま県議会

■二十一世紀を担う子どもたちの活躍を支援するため、子どもとやま県議会を開催したほか、富山県未来財団が設置したこどもたちの十二歳を考える会の活動を支援しました。

■九つの県保健所を四保健所五支所に再編し、地域保健の拠点として機能を強化したほか、国際健康プラザ(仮称)の整備を引き続き進めました。

スポーツ・レクリエーションの振興

■国体冬季大会の開催555日前にあたる八月十三日に2000年国体開催555日前イベントを開催したほか、2000年国体富山県民運動を支援するなど、開催気運を盛り上げました。



時丸・風丸体操

生涯学習の推進

■学校のパソコンをインターネットに接

■生徒が不安や悩みを相談できるよう心の教室相談員を中学校に配置するなど、いじめや不登校等への対応を進めました。

科学・文化の振興

■県立大学の大学院に生物工学専攻の博士課程を、短期大学部に専攻科をそれぞれ開設しました。

■「文化の香り高いふるさと富山」の実現を目標とした県民文化計画を策定し、文化振興施策を推進しました。

■富山県水墨美術館が完成し、来年四月二十九日のオープンに向け準備を進めています。



■氷見市で日本海側最大の前方後方墳、柳田布尾山古墳が発見され、詳細な調査を支援しました。

魅力ある郷土づくり

快適な暮らしの実現

■行政・県民・事業者がそれぞれ取り組むべき行動を具体的に提案する地球にやさしいとやまプラン(富山県地球環境保全行動計画)を策定したほか、環境にやさしい県庁行動計画(県庁エコプラン)を策定し、県庁自らが率先して環境に配慮した事業活動に取り組みました。

■立山の自然環境を守るため立山黒部アルペンルートへの低公害ハイブリッドバス導入に助成しました。



■富山県ごみ処理広域化計画を策定し、ごみ焼却施設からのダイオキシン類の排出抑制に努めました。

■富山県ごみ処理広域化計画を策定し、ごみ焼却施設からのダイオキシン類の排出抑制に努めました。

魅力ある地域づくり

■富岩運河・中島閘門の復元工事が完了し、四月二十七日に記念式が行われました。なお、中島閘門は、昭和期の土木構造物として全国ではじめて、国指定重要文化財(近代化遺産)に指定されました。



県土の保全と活用

■立山カルデラの大自然や砂防事業、災害を克服してきた先人の努力と英知を紹介する立山カルデラ砂防博物館がオープンしました。



交通・情報通信体系の整備

■北陸新幹線については、三月に長野・上越間が着工し、九月には同区間の飯山トンネルの掘削が着手されました。

■北陸自動車道の朝日ICと越中境PA間の四車線化が完成しました。また、東海北陸自動車道の城端トンネルが貫通しました。なお、東海北陸自動車道の福光と上平間は、平成十二年度内の開通を目標として工事が進められています。

■富山空港三番目の国際路線として、富山・大連便が就航し、ソウル便、ウラジオストク便とともに、環日本海地域を結ぶ航空ネットワークが形成されました。また、富山・長崎便が季節便として就航しました。



富山・大連便

■県内十六カ所で「女と男のパートナー会議」を開催するなど、とやま男女共同参画プランを推進しました。

若者と女性の力を社会に

■県内の団体やグループで活動する若者がネットワークの輪を広げるとやま若者未来フォーラムを開催しました。



おおよま恐竜展

■国宝指定記念瑞龍寺展の開催に助成したほか、国指定重要文化財勝興寺の保存修理事業を支援しました。また、おおよま恐竜展の開催に助成しました。

長寿・余暇社会への対応

■特定非営利活動促進法(NPO法)が十一月一日から施行されるのに伴い、富山県特定非営利活動促進法施行条例を制定しました。



■四月から県民福祉条例が全面施行されたのを受け、高齢者や障害者等に配慮した生活関連施設に適合証を交付する制度をスタートさせるなど、福祉のまちづくりを進めました。



いっき富山キャンペーンを引き続き実施したほか、台湾でも観光宣伝を実施しました。また、新たに富山観光アカデミーを開設し、観光客の動向ニーズ等の変化に的確に対応できる人材育成に努めました。

■ 総合的経済対策を策定し、中小企業金融対策、雇用対策、社会資本整備などを推進しました。
 ■ 一店逸品運動や空き店舗対策など、商店街活性化のための先進的なソフト事業に助成するなど、中心市街地の商業活性化に取り組みました。

工業、商業、サービス業の振興



経済通商などについて話し合いました。

■ 日本、中国、モンゴル、ロシア、韓国、五カ国から二十四の自治体の参加のもと北東アジア地域自治体会議'98を開催し、環境協力、



国際化時代への対応

■ 県が昨年設立した環日本海環境協力センターが、環境庁所管の公益法人となりました。また、北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)の専門家会合を開催するなど、環日本海地域における環境協力を推進しました。

■ 伏木富山港は、今年富山新港開港三十周年を迎えましたが、青果物や花き類の輸入に不可欠なくん蒸施設の供用を開始したほか、伏木外港の万葉ふ頭の供用を開始しました。

活力

ある産業づくり

新世紀への産業展開

■ 二十一世紀に向けて本県産業の基本的な方向を示す二十一世紀富山県産業ビジョンの策定に引き続き取り組みました。

■ 高岡オフィスパークの中核施設として、デザイン産業や情報産業を支援するとやま総合デザインセンター(仮称)などの建設に着手しました。

■ 富山湾の深層水を利用した健康飲料を民間事業者との共同研究により試作するなど、深層水の利用研究に取り組みました。



農林水産業の振興

■ 新規就農希望者などに対し実践的体系的な研修を行う、とやま農業未来塾を開設するなど、担い手の育成確保に努めました。

■ 厳しい雇用情勢に対応し、新たに中高年齢者等を対象とした合同再就職面接会を開催したほか、学生を対象とした就職面接会をこれまでの六月に加えて十一月にも開催するなど、雇用の安定確保に努めました。



施策

の実現のために

■ 二十一世紀の県づくりをめざして、次期総合計画(平成十三年)の策定に向けた準備を開始しました。

■ 全国の新聞十八紙に、富山県の印象



■ 商品価値の高い家畜の生産技術について研究を進めている畜産試験場でクローン牛が誕生、千葉と命名されました。



■ 第八回全国食文化交流プラザ富山を開催し、富山ならではの食文化を全国に紹介するとともに、未来の食卓に向けての提案を行いました。



の薄さを逆手に取ったユニークな広告を掲載し、注目を集めました。

■ 富山県未来財団が設置したとやまの方言を考える会や、とやまの歌の会など、郷土への愛着を醸成する取り組みを支援しました。

■ 新富山県行政改革大綱に基づき、①県民へのサービスの向上・確保 ②簡素で効率的な行政運営の二点を柱に据えて、県民の視点に立つた行政改革を進めました。

(例) 旅券センターで旅券を交付する時間を週二回(火・木)、午後七時まで延長しました。



3 会社がスリにパスポートを受け取れるようになった旅券センター

・ 早月ダム建設事業の中止など、大規模事業を見直しました。
 ・ 県立中央病院の医事業務や、富山空港の施設管理業務の一部など、民間委託を進めました。
 ・ 公共事業のコスト削減を進めるとともに効率性や透明性を高めるため、事業を再評価する委員会を設置しました。

主なできごと(平成9年12月～平成10年11月)

- 12月4日 12月定例県議会(18日)
- 2000年国体富山県民運動推進会議設立総会
- 12月6日 中部縦貫自動車道安房トンネル開通
- 12月24日 神通川左岸流域下水道通水式
- 1月23日 田畑(ヤクルトスワローズ)、進藤(横浜ベイスターズ)、柳沢(鹿島アントラーズ)の三選手に富山県イメージアップ賞
- 2月3日 富山県未来財団が、こどもたちの12歳を考える会を設置(6日・とやまの方言を考える会、13日・とやまの歌の会を設置)
- 2月27日 2月定例県議会(3月24日)
- 3月1日 富山・長崎便就航(季節運航)
- 3月12日 島尾・松田(江浜・水見市)が、日本の水浴場55選に選定
- 4月1日 県民福祉条例施行規則が施行(県民福祉条例全面スタート)
- 高輪福祉課に介護保険班設置
- 4月21日 県道富山立山公園線千垣トンネル開通
- 4月25日 国宝指定記念瑞龍寺展(5月10日)
- 4月27日 富岩運河・中島開門復元記念式
- 5月1日 2000年とやま国体募金スタート
- 6月1日 伏木外港「万葉ふ頭」供用開始
- 6月11日 水環境フォーラム'98富山大会
- 6月12日 6月定例県議会(23日)
- 6月17日 富山・大連便就航
- 6月30日 立山カルデラ砂防博物館オープン
- 富山県水圏美術館定礎式
- 7月1日 県の9保健所を4保健所5支所に再編
- 7月3日 ロシア沿海地方代表団来県
- 富山総合デザインセンター(仮称)等合同起工式
- 7月6日 富山県農業改良普及事業50周年記念大会
- 7月11日 立山黒部アルペンルートに、ハイブリッドバス導入
- 7月14日 桂湖ビジターセンターオープン
- 7月16日 教育情報通信ネットワーク運用開始
- 7月18日 富山・大連便就航記念富山県友好訪問団派遣(25日)

- 7月23日 おおやま恐竜展(8月23日)
- 7月29日 子どもとやま県議会開会式(委員会活動)(8月11日 本会議)
- 8月1日 国民宿舎立山荘リニューアルオープン
- とやま若者未来フォーラム(2日)
- 8月3日 知事のまちなまり(新湊市)
- 8月5日 第40回自然公園大会(6日) 県西部合同再就職面接会(以後県内6カ所で開催)
- 8月8日 富山県民体育大会(10日)
- 8月13日 2000年国体開催55日前イベント
- 8月22日 自治体消防50周年記念富山県防火・防災推進大会
- 8月26日 久婦須川ダム定礎式
- 8月27日 第7回国際伝統医薬シンポジウム・富山(28日)
- 9月1日 環日本海環境協力センターが全国法人化
- 総合体育センター飛込温水プール竣工式
- 9月4日 大谷ダム竣工式
- 9月9日 NOWPAP専門家会合(10日)
- 9月14日 9月定例県議会(29日)
- 9月23日 畜産試験場にクローン牛誕生
- 9月24日 富山デザインフェア(27日)
- 10月8日 第8回全国食文化交流プラザ富山(12日)
- 10月9日 とやまマルメディア祭'98(11日)
- 10月13日 すまいとくらし富山フェア(28日)
- 10月14日 2000年国体開催2年前県民運動推進大会
- 10月20日 北東アジア地域自治体会議'98(23日)
- 10月23日 北陸自動車道朝日IC(越中境PA)間4車線化開通
- 10月24日 '98とやま環境フェア(25日)
- 11月2日 平成10年度富山県功労表彰式
- 11月7日 五箇山パークアンドバスライド実証実験(8日)
- 11月9日 富山県国際健康プラザ(仮称)定礎式
- 11月16日 知事のまちなまり(上市町・舟橋村)
- 11月20日 富山県漁業調査船「立山丸」竣工
- 11月26日 地方分権フォーラム
- 11月27日 知事のまちなまり(滑川市)
- 第2回ベンチャープラザとやま

羽化

やわらかくなめされた水面に
生クリームのように山なみは浮かび
コーヒーフロートの海は
まだ甘く弛緩したままだ
むこう岸の灯りは
夜の中のほくろのように
かすかな体温で光っているから
現実とうりふたつの幻に
まだふかぶかともぐりこんでいられる

やがて

かたい背中が割れて
一番近い皮膚から夜明けが始まる
波はみえない力で
内側までおしよせてくる
もうあたたかないきものが生まれるのを
誰も止められない

海のそばで少女は
ひっそりとおとなになる

北東アジア地域自治体会議'98



今回はじめてモンゴルからも参加

十月二十日～二十三日の四日間、富山市の名鉄トヤマホテルを会場に、北東アジア地域自治体会議'98が開催されました。

この会議は、環日本海地域の自治体が交流・協力ネットワークを形成し地域全体の発展と世界平和をめざすため二年前に設立された国際組織「北東アジア地域自治体連合」の発足後をはじめの自治体会議として開催されたもので、中国、モンゴル、ロシア、韓国、日本の五カ国から、

五カ国 二十四自治体が一堂に



各自治体から積極的な発言が相次いだ（ロシア・沿海地方の代表者）

二十四の自治体に参加しました。モンゴルからは今回がはじめての参加となります。

- ◆会議へ参加した自治体
- 中国 遼寧省(山東省(自治体))
 - モンゴル 中央(自治体)
 - ロシア サハ共和国、沿海地方、ハバロフスク地方(自治体)
 - 韓国 江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道(七自治体)
 - 日本 青森県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、山口県(十自治体)

具体的な提言が相次ぐ

会議では、環境協力、経済通商、防災協力など、北東アジア地域の抱える課題について意見交換や協議が行われたほか、具体的なプロジェクトについての提言が相次ぎました。また、参加自治体の総意において、'98 富山宣言が採択されました。

分野	内容及び提言した自治体
経済・通商	北東アジアメッセの開催など、商談・交流の場の提供（富山県、韓国・慶尚北道など） 経済関係シンクタンクの交流（中国・遼寧省など） 電子商取引による通商の拡大（韓国・全羅北道）
文化交流	中国孔子研究院など、北東アジアの文化を研究する機関の設置（中国・山東省）
環境	海洋汚染実態調査など（富山県、ロシア・沿海地方など） 国際環境会議の開催、環境情報センターの設立（韓国・忠清南道）
防災	地震、洪水等に備えた情報交流や、防災担当の相互派遣など（兵庫県） 森林火災対策の専門家育成などのための基金の創設（モンゴル・中央、ロシア・ハバロフスク地方）
一般交流	北東アジア地域交流の船など、住民レベルでの交流の場の提供（島根県）

主な提言内容

'98 富山宣言の骨子

- ◆北東アジア地域自治体連合の拡大・充実に引き続き努力する。
- ◆各自治体から提案のあったプロジェクトについて検討・協議するため、分野ごとの分科委員会を設置する。
- ◆各自治体が設置する研究機関等を連合の支援機関として登録できるようにする。

交流は新たな段階へ

分科委員会は、各自治体から提案のあったプロジェクトを具体化するために事業計画の検討・協議、意見調整を行うもので、その設置は、富山県がかねてから提案していたもの。せっかくの提言を言いっぱなしにせず、実現に向け事業展開を支援していくという狙いがあります。

このように、実質的に継続的な交流基盤が整備されたことが、今回の会議の大きな成果です。北東アジアの地域間交流は、これまでの「相互理解」や「交流ネットワークの形成」という段階から、「実行」の段階へと大きく踏み出したといえるでしょう。

- 設置が決まった分科委員会
- (1) 経済・通商分科委員会
 - (2) 文化交流分科委員会
 - (3) 環境分科委員会
 - (4) 防災分科委員会
 - (5) 一般交流分科委員会

交流の中核拠点めざして

会議に先立って行われた、連合議長引継式では、韓国・慶尚北道の李義根知事から、富山県の中沖知事へ、北東アジア地域自治体連



合の議長が引き継がれました。富山県は、二〇〇〇年までの二年間、同連合の事務局を務めることになっています。また、「環境分科委員会」をはじめとする分科委員会の活動にも積極的な役割を果たしていきます。

このような活動を通じて、富山県は、二十一世紀が北東アジア地域の平和と発展の世紀となり、富山県がその中核拠点となるよう、取り組んでいくことにしています。

次回の北東アジア地域自治体会議は、平成十二年に兵庫県で開催されます。

北東アジア自治体交流のあゆみ

- ・1993年〔平成5年〕 第1回北東アジア地域自治体会議（島根県）
 - ・1994年〔平成6年〕 第2回北東アジア地域自治体会議（兵庫県）
 - ・1995年〔平成7年〕 第3回北東アジア地域自治体会議（ロシア・ハバロフスク地方）
 - ・1996年〔平成8年〕 第4回北東アジア地域自治体会議（韓国・慶尚北道）
 - ・1998年〔平成10年〕 第5回北東アジア地域自治体会議（富山県）
- 北東アジア地域自治体連合が設立（対象地域：中国、韓国、ロシア、日本の四カ国）
- 1998年〔平成10年〕 第5回北東アジア地域自治体会議（富山県）
- 北東アジア地域自治体連合の範囲にモンゴルを追加

引継文書に署名後、慶尚北道の李知事と握手を交わす中沖知事

四車線化で快適に

10/23



四車線化を記念してパレード

■北陸自動車道の朝日ICと越中境PA間の四車線化が完成し、十月二十三日から開通しています。もう、ご利用になった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

■同自動車道の朝日ICと上越IC間は昭和六十三年に暫定二車線で開通しました。しかし、対面通行のうえ、トンネルが連続するため、対向車との重大事故発生の危険性などが指摘されてきました。また交通量も増えてきたことから、四車線化工事が進められてきたものです。

■残る上越ICまでの区間でも四車線化工事が進められており、平成十二年度中には全線開通が予定されています。

■全線四車線化によって、安全性や走行性、快適性が高まり、交通の流れもスムーズになります。また、観光、物流、地域間交流などさまざまな面で効果が期待されます。

国際健康プラザ 定礎式

11/9

■来年夏にオープンする富山県国際健康プラザ(仮称)の定礎式が、富山市友杉・任海地内で行われました。

■同プラザは、国内外に伝統医学の情報を発信する「伝統医学のメッカ」、県民一人ひとりに合った健康づくりを提案する「健康づくりの中核拠点」として整備が進められているもので、生命科学館、健康スタジアム、国際伝統医学センター、屋外健康づくり施設などから構成されます。

■定礎式は国際伝統医学センターで行われ、式に引き続いて、チベット医学の聖典をわかりやすく図説化した「四部医典タンカ」の一部が公開されました。これは、全点揃ったものが世界で十組程度しかない貴重なものですが、同センターは全八十点を所蔵しています。貴重な資料に、出席者は興味深く見入っていました。



建設が進む国際健康プラザ

2000年国体 開催二年前県民運動推進大会

10/14



特選受賞者の表彰

■2000年国体秋季大会の開催二年前にあたる十月十四日、国体の開催気運を一層盛り上げようという県民運動推進大会が、とやま自遊館で開催されました。

■おなじみのエアロビクスダンス「時丸・風丸体操」で開演した大会では、中沖知事が「県民の皆さん一人ひとりの自発的な参加によって2000年国体富山県民運動を活発に展開していきましょう」とあいさつ。続いて、県民運動啓発ポスター・標語コンクールの特選受賞者の表彰、2000年国体の炬火台(オリンピックの聖火台に相当)の基本デザインの発表が行われました。



国体出場時の思い出を語る萩原次晴さん

■また、市町村民運動の活動事例の紹介も行われ、富山市の野上俊一さんと高岡市の米道吉映さんが、これまで進めてきた花いっぱい運動や美化活動などを紹介。「国体に向けて更に運動を推進していきたい」と決意を語りました。

■このほか、スキートの元オリンピック選手、萩原次晴さんの講演もあり、立山山麓での合宿や国体に出場した時の思い出、長野五輪のエピソードなどを披露。また、「国体選手はみんな、地元の人とのふれあいを楽しみにしています。富山を訪れる選手たちを温かく迎えてください」と話すと、約八百人の参加者は熱心に聞き入っていました。

一日部長・一日行議

県では、県民の皆さんから意見や提言をいただき県政に反映させていくため、一日部長を毎年実施しています。今年も、十月十九日に一日部長の辞令交付と各部署からの事業説明、施設の視察などが行われ、十一月四日には、知事を交えての一日庁議が行われました。以下、主なやりとりを紹介いたします。

◎三神百合子さん(生活環境部長)

リ サイクルだけでは、大量消費・大量廃棄という根本的な問題は解決されません。ドイツでは、むしろ、ゴミになるようなものをつくらないということを重視しています。私たちが住民レベルでライフスタイルの見直しに取り組んでいきますので、行政も積極的な対応をお願いします。

◎森島光二さん(企業局長)

地 球環境問題の根底には、人間が豊かな生活を追求するあまり、地球の自浄力を超えてしまったということがあります。県としても地球環境を守るということについてPRに努めていただきたいと思っています。

中沖知事

地球環境問題を解決していくためには一人ひとりの取り組みが大切です。県も、先進例を研究して施策に取り入れるなど積極的に対応していきますので、皆さんもがんばってください。

◎高村俊彦さん(厚生部長)

高 志リハビリ病院では、建物の傷みが目に付き、修繕の必要性を感じました。

中沖知事

よく調査して必要があれば修繕したいと思えます。いずれにしても、これからは施設の建設より、それらをどう維持活用していくかが大切だと考えています。

◎増岡一郎さん(商工労働部長)

県 の工業技術センターは、世界的な技術を持っているのですから、民間企業の利用に向けてもっとPRしてもらいたいと思います。

中沖知事

民間企業との大型研究を進めるなど、工業技術センターが、さらに地元の産業に役立つものとなるよう努力していきます。



◎出合和仁さん(企画部長)

■が三月に実施した全国向けの新聞広告「うすい印象」は、とてもよいPRだったと思います。私のところにも東京の知人から「印象がうすいと言われると逆にインパクトを感じる」という電話がありました。これからも富山のPRをお願いします。

中沖知事

この新聞広告は、「消費者のためになった広告コンクール」で銀賞となるなど高い評価をいただきました。県ではこれからも富山のPRに努めていきますので、県民の皆さんも県外の人に富山のよさをPRしてください。

このほか、農林水産部長の松浦克郎さんからは、農業の後継者問題などについて、土木部長の島崎秀雄さんからは、国体における既存施設の活用などについて、教育長の木内静子さんからは、環境に配慮する心をはぐくんでいくことの大切さなどについて提言がありました。

県では、これらの提言を検討し、今後の県政に反映させていくことにしています。

一日部長に委嘱された皆さん

- 総務部長 松本 眞明さん(会社員)
- 企画部長 出合 和仁さん(会社社長)
- 生活環境部長 三神 百合子さん(主婦)
- 厚生部長 高村 俊彦さん(会社員)
- 農林水産部長 松浦 克郎さん(会社社長)
- 土木部長 島崎 秀雄さん(大工棟梁)
- 教育長 木内 静子さん(自営業)
- 企業局長 森島 光二さん
- 国体局長 井出 妙子さん(主婦)
- 2000年国体局長 井出 妙子さん(主婦)
- 富山県観光力向上対策本部強化対策委員会 企業局長 森島 光二さん
- 財団法人富山県協会北陸センター富山支部長 教育長 木内 静子さん(自営業)
- 県生涯学習団体協議会理事 厚生連学習団体協議会理事

問合せ 広報課 ☎0764(44)3133

県の施設の催しガイド

施設名	開館時間・休館日・入館料	企画展等のお知らせ
近代美術館 ☎0764(21)7111 富山市西中野町1-16-12	9:30~17:00 ☎月曜・祝日の翌日・年末年始 (12/28~1/4) 一般 200円 高・大160円 小・中100円	美との対話'98 [在ること]への問いかけ 12/13(日)まで みんなでつろう'99 12/23(祝)~2/11(祝)
立山博物館 ☎0764(81)1216 立山町芦峯寺93-1	9:30~17:00 ☎月曜・祝日の翌日・年末年始 (12/28~1/4) まんだら遊苑は、3月末まで休苑です。 一般 高・大 小・中 展示館(常設展示) 300円 240円 150円 遙望館(映像ホール) 100円 80円 50円	常設展示 ●遙望館の映像上映時刻 10:00 11:00 13:00 14:00 15:00 (「新立山曼荼羅絵図」「風-立山1995-」を上映)
立山カルデラ砂防博物館 ☎0764(81)1160 富山地方鉄道立山駅前	9:30~17:00 ☎月曜・祝日の翌日・年末年始 (12/28~1/4) 一般 400円 高・大 320円 小・中 200円	常設展示
中央植物園 ☎0764(66)4187 婦中町上善田42	9:00~16:30 ☎木曜・祝日の翌日・年末年始 (12/28~1/4) 一般 600円 小・中 300円	日曜植物案内 12/6(日)熱帯の花木 1/10(日)有用植物 いずれも11:00~12:00 企画展示「干支にちなんだ植物展」 12/11(金)~1/15(祝)
こどもみらい館 ☎0766(56)9000 小杉町黒河(太閤山ランド内)	9:30~17:00 ☎火曜・第四水曜・祝日の翌日 年末年始(12/29~1/3) 入館無料	Gutes Spielzeug よい玩具展覧会 1/17(日)まで ドイツの「子どもの遊びと玩具審議会」が厳選した約200点の玩具を展示 ※12月~3月は太閤山ランドの駐車場が無料です。 また日・祝日と第2・第4土曜日は園内無料バスも運行されます。
埋蔵文化財センター ☎0764(34)2814 富山市茶屋町206-3	9:00~17:00 ☎土曜・日曜・祝日・年末年始 (12/28~1/4) 入館無料	企画展「高速道路の下に眠る遺跡」12/3(木)~3/31(水) 高速道路建設に伴う、発掘調査の成果を紹介します。
公文書館 ☎0764(34)4050 富山市茶屋町33-2	9:00~17:00 ☎土曜・日曜・祝日・年末年始 (12/26~1/4) 入館無料	特別企画展「前近代越中の陸上交通」 奈良時代から江戸時代までの越中の陸上交通に関する資料を展示 12/11(金)まで
県民会館分館内山邸 ☎0764(32)4567 富山市宮尾903	9:00~16:00 ☎火曜日 一般 200円 小・中・高 100円	開館20周年記念特別展「加賀のれん」 12/20(日)まで
帆船海王丸 ☎0766(82)5181 新湊市海王町(海王丸パーク内)	9:30~16:00 ☎月曜・祝日の翌日・年末年始 (12/28~1/4) 一般 400円 小・中 200円	餅つき大会 12/23(祝)10:00~ 鏡開き大会 1/10(祝)10:00~ ※いずれの催しもお餅と豚汁のサービスあり。
県民小劇場オルビス ☎0764(45)4531 富山駅前マリエ7階	オルビスと巡る「舞台芸術・芸能・発見ライブ」 Vol.7 サクソフオンっておもしろい! 12/10(木) 19:00~ 前売券 3,000円(当日 3,500円) ※会員は無料です。 テレビCMでもおなじみの須川展也を招き、サクソフオンの魅力に迫ります。	



健康づくりのための運動



Q 運動不足が気になります。健康づくりのために運動をはじめようと思うのですが、どのような運動がよいのでしょうか。(30代男性、会社員)

A 運動不足になると体力が低下し、階段の昇り降りでも息切れがしたり、疲れやすくなるなどの症状が現れてきます。また、使われなかった余剰なエネルギーが脂肪として過剰に蓄積され、肥満の原因となるだけでなく、高血圧や糖尿病などの生活習慣病が発症しやすくなるといわれています。

これらの病気の予防や症状を改善するためには、酸素を十分に取り込みながら、一定の強度で長時間持続できる有酸素運動を行うことが基本です。脂肪を効率よく燃焼させ、心臓や肺、血管、筋肉、関節などに適度な刺激を与えることができるからです。

具体的には、息がはずむ程度のウォーキング、ジョギング、水泳、エアロビックスなどを毎日20分以上行うのがよいでしょう。このような運動を継続することによって、生活習慣病の予防だけでなく、全身持久力など体力の向上も期待できます。

平成11年夏にオープン予定の国際健康プラザ(仮称)では、身近で気軽に行える有酸素運動をはじめとして、水中ストレッチングやトリム運動など多彩な健康づくりの運動プログラムを皆さんの健康状態や体力状況などに応じて提供する予定です。

お問合せ 国際健康プラザ建設室
☎0764-44-9657

プレゼントの応募ハガキに書き添えられた、本誌についての感想に目を通すのが毎月の楽しみです。お褒めの言葉、辛口のご意見、内容はさまざまですが、広報誌を作っていくうえで参考になるご意見がたくさんあります。

どんな内容でもプレゼントの当落には影響しませんので、応募の際は本誌についての感想を忘れずにお書き添えください。(Y)

後編 記集

気象台の予報では、暖冬傾向が終わり今年の冬は平年並、スキーヤーには朗報か。「冬休みには週三回くらいスキーに行く」という二紀展入選の森さんはスキー一級の腕前。絵画だけでなく木彫りや工芸もこなすという彼に、外出を避けコタツとミカンを友とする私は、ただただ圧倒されるばかり。※今月号より参上、よろしくお願ひします。(W)

1ページで紹介した「木の香浴泉 ゆら湯ら」のペア入浴券と、ピンナップとやま(7、8ページ)の写真それぞれ5名の方にプレゼントします。官製ハガキに、希望のプレゼント名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌の入手方法、本誌についての感想を記載して下記までお申し込みください。

●宛先/〒930-8501 富山県庁広報課 県広報とやま12月号プレゼント係
●締切/12月31日(当日消印有効)

10月号プレゼント当選者

■福野町園芸植物園テレホンカード
長井照夫さん(高岡市)、横田栄子さん(高岡市)
吉田厚子さん(富山市)、瀧田澄子さん(小矢部市)
山本涼司さん(大門町)

■ピンナップとやま写真
谷井喜多子さん、高田亜由美さん、栗山将吾さん(以上富山市)
朴木たかみさん(新湊市)、荒木幸夫さん(滑川市)

「県広報とやま」は原則として毎月一日に発行し、県庁正面窓口、県刊行物センター(県民会館二階)、県税事務所、市町村役場窓口などで無料配布しています。

郵送による定期購読をご希望の場合は郵便番号、住所、氏名、電話番号、購読期間(○月号~○月号)を明記し郵送料として一六〇円切手を必要枚数(二月あたり一枚)同封のうえお申し込みください。

あて先/〒930-8501(住所記載不要)

とやま
音のある風景
Vol.8



波間に 響く 漁師唄

網おこし木遣り(氷見市)

稲妻が夜空を貫き、「ゴロゴロゴロ」という音とともに大気が激しく震える。「ブリおこし」が鳴り響くと、ブリ漁への期待に漁師たちの胸は高まる。

「ヤンエー ヤツサカエー ヨーイヤナ」夜明け前、勇壮な歌声が辺りに満ちる。三十人がかりで網を引き上げていくと、「重いどおりや 千両万両の金袋あぶらぶくろじゃ 魚の山」と歌われるとおり、水飛沫みずしぶきをあげながらブリの銀色が闇に浮かびあがってくる。

冬の富山を代表する魚、ブリはアジ科の回遊魚で成魚は体長一メートル、体重十五キロを超える。九州付近で孵化した稚魚は成長に伴いツバイソ、コツクラ、フクラギ、ハマチ、ガンド、ブリと名を変えながら北上と南下をくりかえす。その行く手を長さ五百メートル〜二キロに渡り張り巡らされた定置網が網の奥へ奥へと誘い込み捕えるのだ。

氷見は定置網漁発祥の地。元和四年（一六一八年）にはブリを獲る定置網が使われていたとの記録が残る。その歴史のなかで「網おこし木遣り」も独特の節回しふしが作られていった。

時代とともに網おこしの作業は変化し、機械化が進む近年では、木遣りが歌われる機会もなくなつたという。しかし、尽きることのない漁師たちの情熱は、網おこしの光景に昔と変わらない力強さを与え続けている。

※県では今年二月、未来に伝えたい、残したい、県内五十箇所の「とやまの音風景」を認定しました。